

2024年9月26日
住友生命保険相互会社

スミセイ「投資事情アンケート」 ～投資している方の7割超が「NISA」を利用、貯蓄から投資へ緩やかにシフト～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳）は、投資に関するアンケートを実施しました。

新NISA元年となった2024年、資産形成の手段として投資に注目が集まりましたが、株価の乱高下により金融市場に動揺が生じました。また、“貯蓄から投資へ”の活性化のため、国民の金融リテラシー向上への取組みも拡大しています。

◆調査結果の概要（詳細は別紙参照）

○NISA開始以降に投資を始めた人が約7割。7割超が早く開始すべきだったと考えている（3～6ページ）

全体の約7割（69.6%）が、NISA開始以降に投資を始めている。開始年齢の平均は、“理想”「26.2歳」が“現実”「33.7歳」よりも7.5歳若く、76.6%の人が“理想<現実”の年齢を回答した。

投資を始めたきっかけの1位は「老後の生活資金への不安」で約6割（56.7%）を占め、投資目的は「将来の資産形成」が7割超（72.7%）となった。

○「NISA」の利用率は7割超。1か月の投資金額の平均は、前年から7,691円アップの68,182円（7～11ページ）

資産運用の方法は、7割超（74.7%）で「NISA」がトップとなり、以下は「株式」（47.6%）、「投資信託」（43.8%）だった。「金・プラチナ」は、実施している人（7.6%）の2倍以上（15.0%）が興味を持っている。1か月の投資金額の平均は「68,182円」で、前年より「7,691円」アップした。

投資金額と預貯金額の比率は、「4.9:5.1」で預貯金額が高いものの、前年（「4.5:5.5」と比較すると、わずかに貯蓄から投資にシフトした。

○学校等での金融教育の経験不足が現在の金融リテラシーに影響か（12～15ページ）

学校等での金融教育の経験はわずか4.3%のみで、自身の金融リテラシーの評価は、分野によって異なるものの、『高い』（「高い」＋「やや高い」）は約4割～6割にとどまった。今以上の知識・判断力を身に付けたいと思っている人は6割超（64.3%）にのぼる。

経済的な自立およびより良い生活を送るための金融リテラシーについて、望ましい習得時期をきいたところ、平均で「22.2歳」までという結果になった。

【 調査概要 】

1. 調査期間 : 2024年8月29日～9月1日
2. 調査方法 : インターネット応募による選択方式および自由記入方式
3. 調査対象 : 1,000人(全国の20代～60代・会社員(正規雇用の会社員・公務員)・
現在投資を行っている男女)

調査対象者の内訳(人)

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 全体 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 男性 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 500 |
| 女性 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 500 |
| 合計 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 1,000 |

【 目次 】

1. 投資を始めた時期・目的
 - a. 投資を始めた時期 3ページ
 - b. 投資開始年齢の“理想”と“現実” 4ページ
 - c. 投資を始めたきっかけ 5ページ
 - d. 投資を行う理由 6ページ
2. 資産運用の実施状況
 - a. 実施している・興味がある資産運用の種類 7ページ
 - b. 1か月の投資金額と前年比較 8ページ
 - c. 株価の乱高下への対応 9ページ
 - d. 投資に関する知識や情報の収集方法 10～11ページ
3. 金融リテラシーについて
 - a. 金融教育経験の有無と自身の金融リテラシーについて 12～13ページ
 - b. 自立に必要な金融リテラシーの学習時期 14ページ
 - c. 高校の金融教育における理想の講師 15ページ

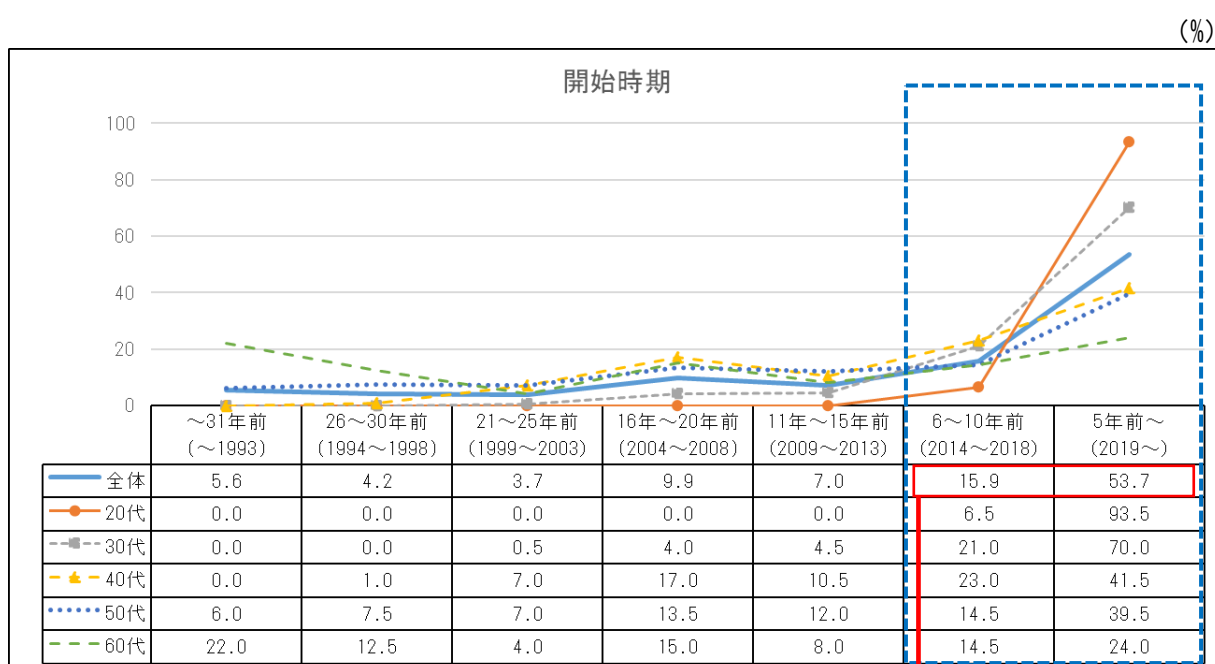
【 調査結果 】

1. 投資を始めた時期・目的

a. 投資を始めた時期

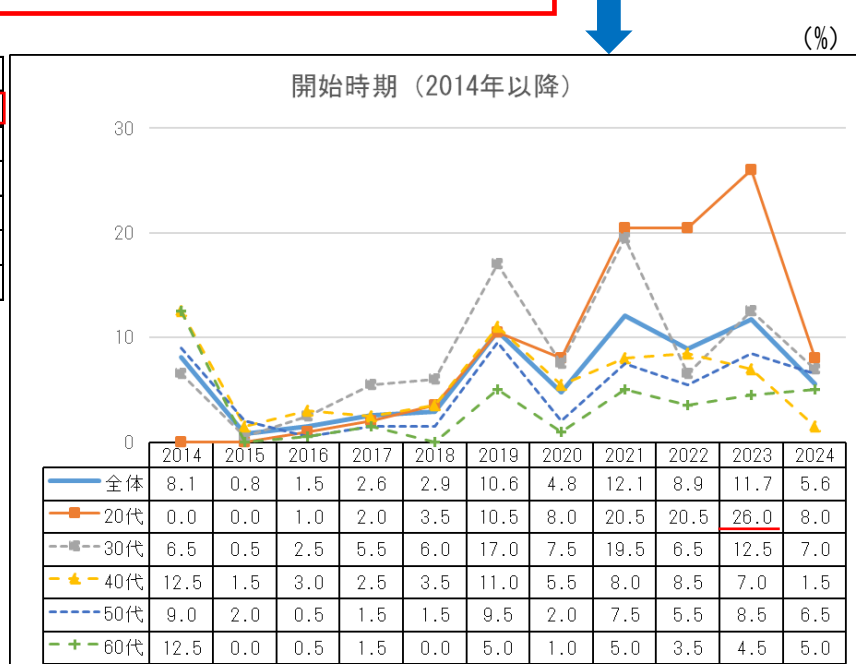
投資の開始時期は、全体の約7割（69.6%）が10年前以降で、2014年（10年前）からスタートしたNISAの影響が見られます。また、新NISAが開始する直前の2023年には、20代の駆け込み投資（26.0%）が目立ちました。

◆あなたが投資を始めた時期を教えてください。



(%)

| 年 | ～2013 | 2014～ |
|-----|-------|-------|
| 全体 | 30.4 | 69.6 |
| 20代 | 0.0 | 100.0 |
| 30代 | 9.0 | 91.0 |
| 40代 | 35.5 | 64.5 |
| 50代 | 46.0 | 54.0 |
| 60代 | 61.5 | 38.5 |



b. 投資開始年齢の“理想”と“現実”

開始年齢の平均は、“現実”が「33.7歳」であるのに対し“理想”（自身にとって最適な開始年齢）は「26.2歳」と、“理想”が“現実”より7.5歳マイナスとなり、全年代において“理想”が“現実”を下回りました。

さらに、“理想<現実”（実際よりもっと早くスタートすべきだった）の回答は全体の7割超（76.6%）になりました。

◆あなたが投資を開始した年齢と、自身にとって最適だと思う開始年齢を教えてください。

【開始年齢（現実） 平均】 (歳)

| 全体 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|------|------|------|------|------|------|
| 33.7 | 23.1 | 29.2 | 34.0 | 39.9 | 42.4 |

【最適な開始年齢（理想） 平均】 (歳)

| 全体 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|------|------|------|------|------|------|
| 26.2 | 21.8 | 24.2 | 25.3 | 28.5 | 31.3 |

【理想と現実の比較】 (%)

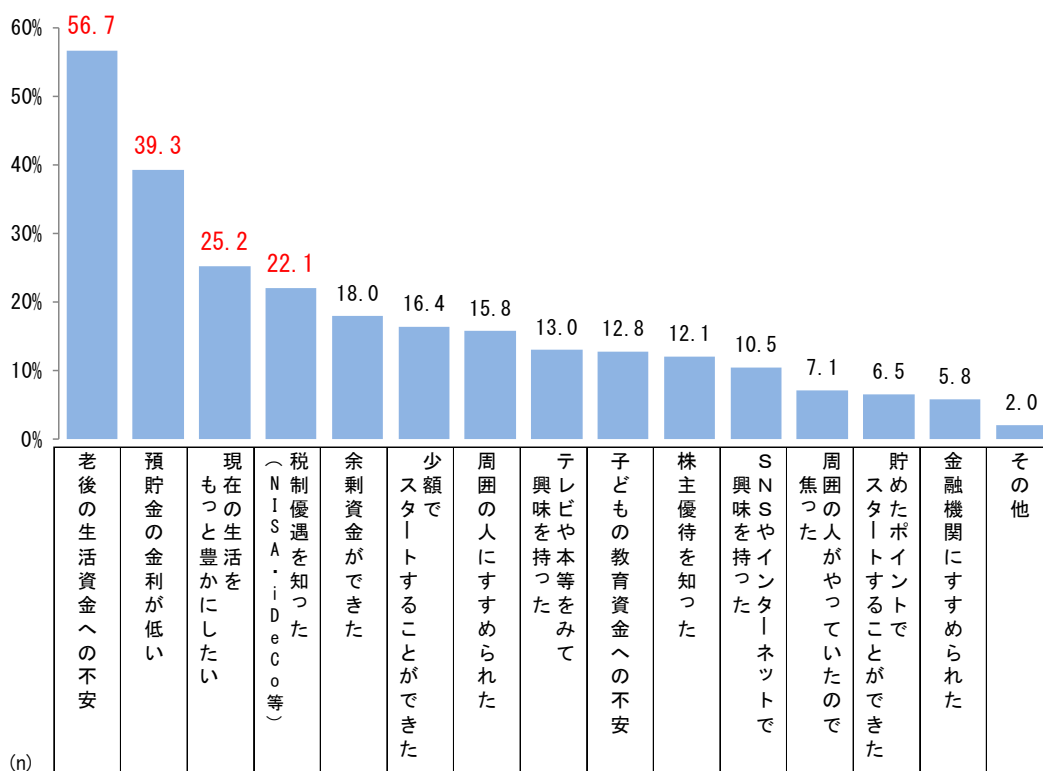
| | | n | 理想<現実 | 理想=現実 | 理想>現実 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|
| 全体 | | 1,000 | 76.6 | 14.2 | 9.2 |
| 年代 | 20代 | 200 | 62.0 | 24.0 | 14.0 |
| | 30代 | 200 | 81.0 | 12.0 | 7.0 |
| | 40代 | 200 | 82.5 | 9.0 | 8.5 |
| | 50代 | 200 | 77.5 | 13.0 | 9.5 |
| | 60代 | 200 | 80.0 | 13.0 | 7.0 |

c. 投資を始めたきっかけ

1位は「老後の生活資金への不安」で全体の約6割（56.7%）を占め、全年代においてトップになっています。2位以下は、「預貯金の金利が低い」（39.3%）、「現在の生活をもっと豊かにしたい」（25.2%）、「税制優遇を知った（NISA・iDeCo等）」（22.1%）が続きました。

年代別比較では、「税制優遇を知った」は20代～40代が2割超、「余剰資金ができた」（全体5位・18.0%）は60代が約3割（27.5%）、「子どもの教育資金への不安」（全体9位・12.8%）は30代が2割超（22.0%）と、他年代より高くなっています。

◆あなたが投資を始めたきっかけを教えてください。（複数回答可）



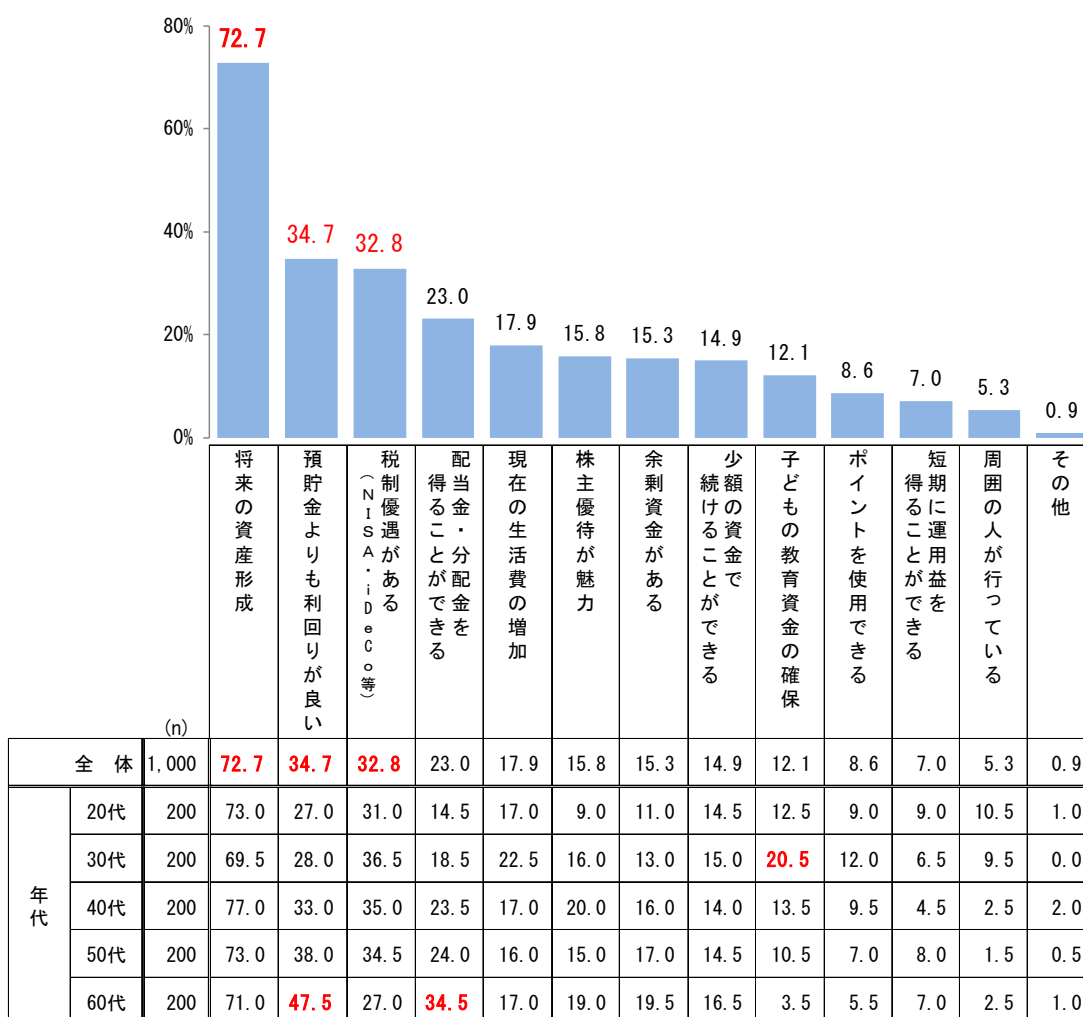
| (n) | | 全体 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|------------------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 理由 | 人数 | 割合 (%) | 割合 (%) | 割合 (%) | 割合 (%) | 割合 (%) | 割合 (%) |
| 老後の生活資金への不安 | 1,000 | 56.7 | 52.0 | 57.0 | 58.0 | 64.0 | 52.5 |
| 預貯金の金利が低い | 200 | 39.3 | 30.5 | 35.0 | 43.0 | 46.0 | 42.0 |
| 現在の生活をもっと豊かにしたい | 200 | 25.2 | 26.0 | 28.0 | 27.0 | 23.5 | 21.5 |
| 税制優遇を知った (NISA・iDeCo等) | 200 | 22.1 | 27.0 | 22.5 | 27.5 | 18.5 | 15.0 |
| 余剰資金ができた | 200 | 18.0 | 16.0 | 13.5 | 14.5 | 18.5 | 27.5 |
| 少額でスタートすることができた | 200 | 16.4 | 15.5 | 21.0 | 15.5 | 14.5 | 15.5 |
| 周囲の人にすすめられた | 200 | 15.8 | 18.0 | 16.0 | 16.0 | 14.0 | 15.0 |
| テレビや本等を見て興味を持った | 200 | 13.0 | 12.5 | 15.5 | 13.5 | 11.0 | 12.5 |
| 子どもの教育資金への不安 | 200 | 12.8 | 11.0 | 22.0 | 14.5 | 10.5 | 6.0 |
| 株主優待を知った | 200 | 12.1 | 8.5 | 15.0 | 12.0 | 12.0 | 13.0 |
| SNSやインターネットで興味を持った | 200 | 10.5 | 15.0 | 17.0 | 10.5 | 6.0 | 4.0 |
| 周囲の人がやっていたので | 200 | 7.1 | 8.5 | 8.5 | 5.0 | 6.5 | 7.0 |
| 貯めたポイントでスタートすることができた | 200 | 6.5 | 9.5 | 7.5 | 8.5 | 5.0 | 2.0 |
| 金融機関にすすめられた | 200 | 5.8 | 4.0 | 2.0 | 7.0 | 6.0 | 10.0 |
| その他 | 200 | 2.0 | 1.5 | 2.5 | 2.5 | 1.0 | 2.5 |

d. 投資を行う理由

1位は2位と大差をつけて「将来の資産形成」(72.7%)になりました。2位は、「預貯金よりも利回りが良い」(34.7%)、3位は「税制優遇がある(NISA・iDeCo等)」(32.8%)でした。

年代別で見ると、60代が「預貯金よりも利回りが良い」と「配当金・分配金を得ることができる」(34.5% 全体4位・23.0%)が高くなっています。また、30代は前出の「1. c. 投資を始めたきっかけ」(「子どもの教育資金への不安」22.0%)と同様、「子どもの教育資金の確保」(20.5% 全体9位・12.1%)が高くなりました。

◆あなたが投資を行う理由を教えてください。(複数回答可)



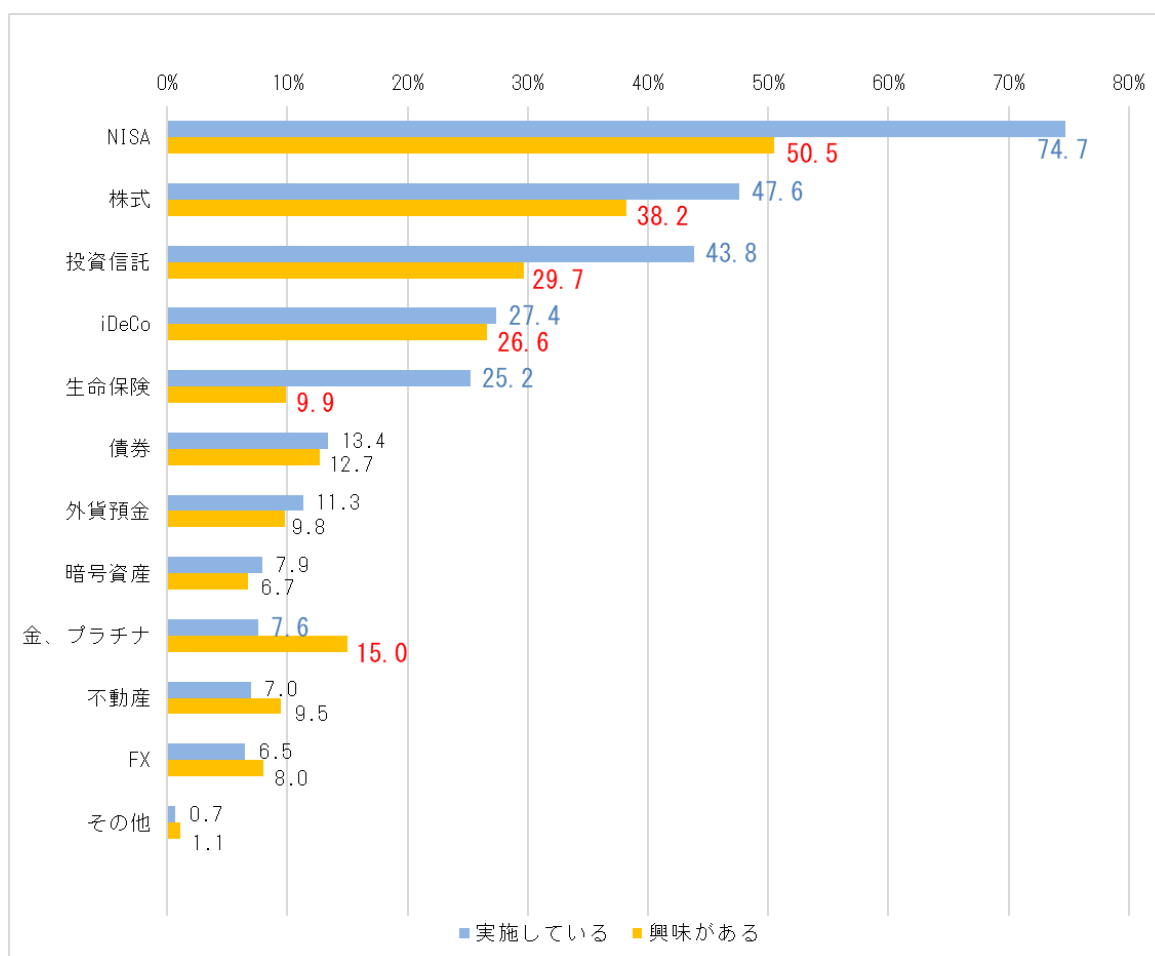
2. 資産運用の実施状況

a. 実施している・興味がある資産運用の種類

“実施している”の1位は「NISA」で、利用率は7割超（74.7%）でした。2位は「株式」（47.6%）、3位は「投資信託」（43.8%）で、いずれも5割未満となっています。

“実施している”・“興味がある”は、1位から4位が「NISA」、「株式」、「投資信託」、「iDeCo」と同順に並びましたが、いずれも“興味がある”よりも“実施している”の数値が高くなっています。また、上位以外で数値の差が大きかったものは、「生命保険」（“実施している”25.2%・“興味がある”9.9%）と「金・プラチナ」（“実施している”7.6%・“興味がある”15.0%）でした。

◆資産運用の種類について、あなたが現在行っているものと、興味があるもの（現在行っているものを含む）を教えてください。（複数回答可）



b. 1か月の投資金額と前年比較

全体平均は68,182円で、年代別では最高が40代の82,082円、最低は20代の35,414円でした。1か月の投資金額は、平均で月収の約2割(18.4%)を占め、年代による差はほとんど見られません。

前年比較では8割弱(77.0%)が「増減なし」でしたが、平均では7,691円増となっています。全年代において投資金額は増加傾向で、特に30代の増加額(10,075円)が目立ちます。なお、“投資金額：預貯金額”(比率)は「4.9：5.1」で預貯金額が高いものの、前年(「4.5：5.5」)からわずかに貯蓄から投資へシフトしました。

- ◆ 1か月の投資金額と、月収に対する1か月の投資金額の割合をお答えください。
また、前年との差額および預貯金との比率(合計を10として)を教えてください。

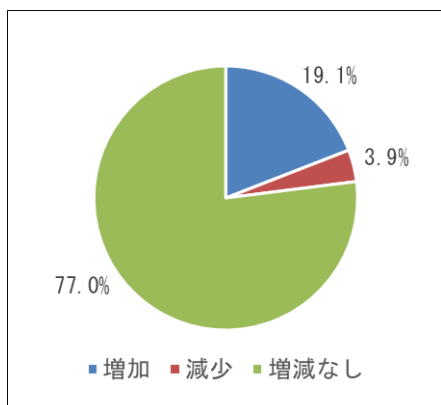
【1か月の投資金額 平均】 (円)

| | | n | 平均 |
|----|-----|-------|--------|
| 全体 | | 1,000 | 68,182 |
| 年代 | 20代 | 200 | 35,414 |
| | 30代 | 200 | 65,785 |
| | 40代 | 200 | 82,082 |
| | 50代 | 200 | 78,283 |
| | 60代 | 200 | 79,347 |

【月収に対する投資金額の割合】 (%)

| | | n | 平均 |
|----|-----|-------|------|
| 全体 | | 1,000 | 18.4 |
| 年代 | 20代 | 200 | 18.6 |
| | 30代 | 200 | 17.7 |
| | 40代 | 200 | 18.9 |
| | 50代 | 200 | 17.6 |
| | 60代 | 200 | 19.3 |

【1か月の投資金額の前年比較】



| | | n | 増減額平均 (円) |
|----|-----|-------|-----------|
| 全体 | | 1,000 | 7,691 |
| 年代 | 20代 | 200 | 4,223 |
| | 30代 | 200 | 10,075 |
| | 40代 | 200 | 6,778 |
| | 50代 | 200 | 8,325 |
| | 60代 | 200 | 9,055 |

【投資金額と預貯金額の比率】

| | | n | 今年 | | 前年 | |
|----|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | | | 投資 | ： 預貯金 | 投資 | ： 預貯金 |
| 全体 | | 1,000 | 4.9 | ： 5.1 | 4.5 | ： 5.5 |
| 年代 | 20代 | 200 | 4.6 | ： 5.4 | 4.2 | ： 5.8 |
| | 30代 | 200 | 5.1 | ： 4.9 | 4.5 | ： 5.5 |
| | 40代 | 200 | 5.1 | ： 4.9 | 4.7 | ： 5.3 |
| | 50代 | 200 | 5.0 | ： 5.0 | 4.5 | ： 5.5 |
| | 60代 | 200 | 4.9 | ： 5.1 | 4.5 | ： 5.5 |

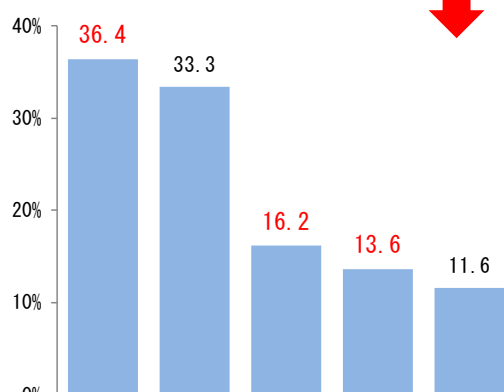
c. 株価の乱高下への対応

2024年8月、日本株式市場に歴史的な乱高下が発生しましたが、「冷静に対応できた」は約8割（80.2%）、「冷静に対応できなかった」は約2割（19.8%）でした。冷静に対応できなかった人の約4割（36.4%）が「運用内容の見直し」を行い、「狼狽売り」（16.2%）や「積立ストップ」（13.6%）にもつながっています。

◆2024年8月の歴史的な日本株の値動きがあなたに与えた影響を教えてください。

| | | (%) | |
|----|-----|----------|-------------|
| | | n | |
| | | 冷静に対応できた | 冷静に対応できなかった |
| 全体 | | 1,000 | 80.2 / 19.8 |
| 年代 | 20代 | 200 | 77.5 / 22.5 |
| | 30代 | 200 | 79.5 / 20.5 |
| | 40代 | 200 | 81.5 / 18.5 |
| | 50代 | 200 | 79.5 / 20.5 |
| | 60代 | 200 | 83.0 / 17.0 |

【冷静に対応できなかった人の対応】
（複数回答可）



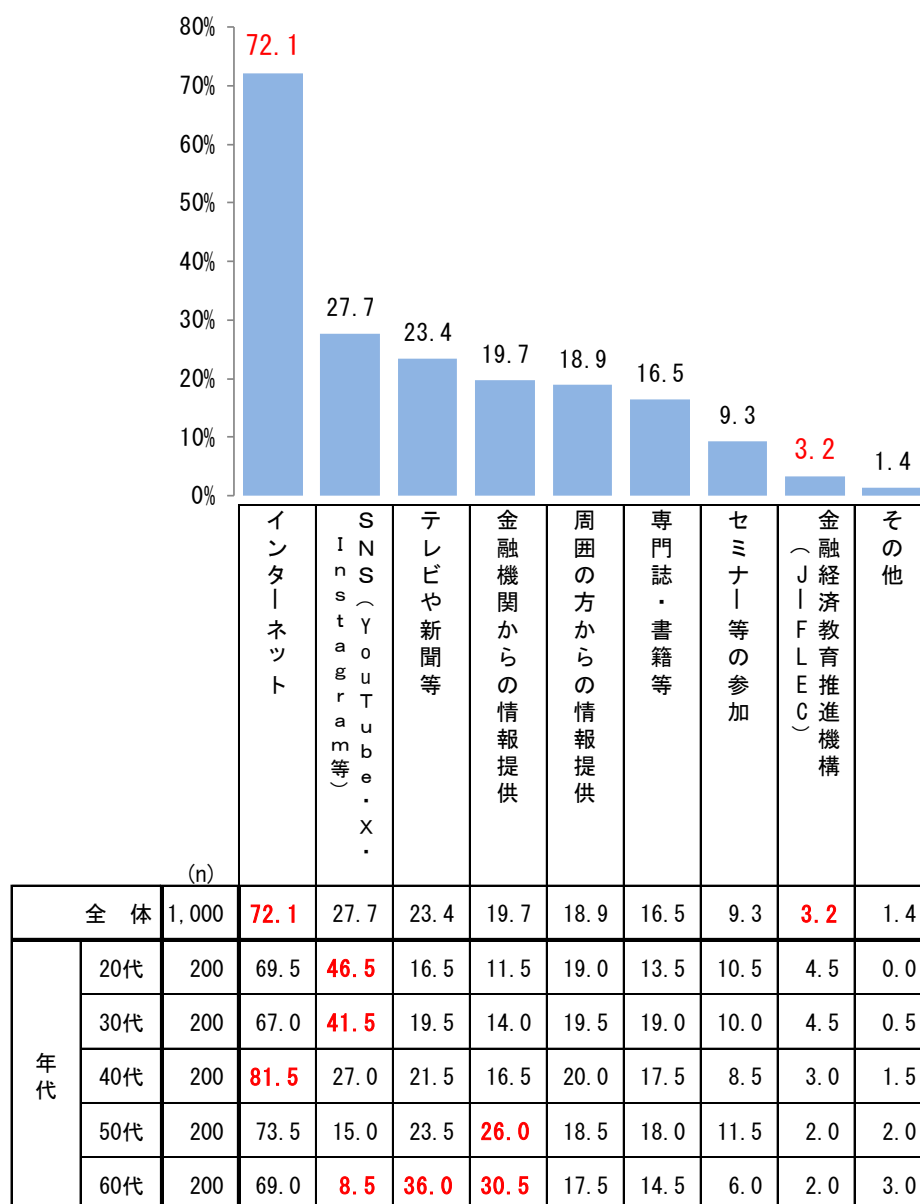
| | | (n) | | | | | | |
|----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|
| | | 全体 | 198 | 36.4 | 33.3 | 16.2 | 13.6 | 11.6 |
| 年代 | 20代 | 45 | 35.6 | 40.0 | 20.0 | 13.3 | 2.2 | |
| | 30代 | 41 | 46.3 | 26.8 | 22.0 | 24.4 | 2.4 | |
| | 40代 | 37 | 35.1 | 32.4 | 16.2 | 10.8 | 16.2 | |
| | 50代 | 41 | 31.7 | 41.5 | 14.6 | 9.8 | 9.8 | |
| | 60代 | 34 | 32.4 | 23.5 | 5.9 | 8.8 | 32.4 | |

d. 投資に関する知識や情報の収集方法

最も活用されているものは「インターネット」(72.1%)で、特に40代(81.5%)が高くなっています。2位の「SNS」(27.7%)は、20代(46.5%)・30代(41.5%)が4割超であるのに対し、60代はわずか8.5%で、年代の差が顕著に現れました。その他、「テレビや新聞等」(3位・23.4%)は60代(36.0%)が、「金融機関からの情報提供」(4位・19.7%)は50代(26.0%)・60代(30.5%)が高くなりました。

なお、2024年8月に本格始動した、国民の金融リテラシー向上を目的とした金融経済教育推進機構(J-FLEC)は3.2%で、今後の浸透および活用率向上が期待されます。

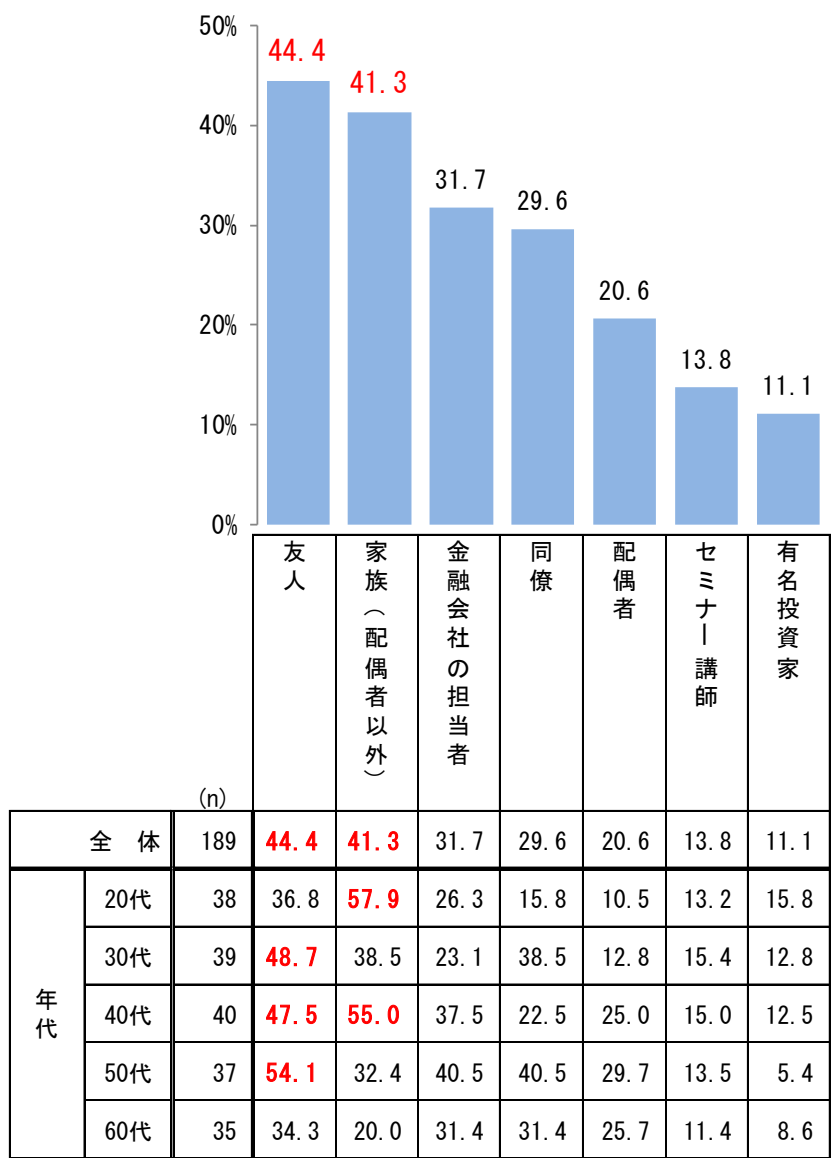
◆投資に関する知識や情報はどのように得ていますか。(複数回答可)



さらに、「周囲の方からの情報提供」（5位・18.9%）の詳細をきいたところ、1位が「友人」（44.4%）、2位が「家族（配偶者以外）」（41.3%）でした。「友人」は30代～50代が、「家族（配偶者以外）」は20代（57.9%）と40代（55.0%）の数値が目立ちます。

◆周囲の方、というのはどなたからの情報提供ですか。（複数回答可）

* 投資に関する知識や情報の収集方法を「周囲の方からの情報提供」と回答された方を対象



3. 金融リテラシーについて

a. 金融教育経験の有無と自身の金融リテラシーについて

学校等での金融教育の経験をきいたところ、経験が「あり」はわずか4.3%と非常に低い数値になっています。

自身の金融リテラシーは、「家計管理（適切な収支管理）」と「生活設計（ライフプランの明確化）」は、『高い』（「高い」と「やや高い」の計）が過半を占めましたが、「金融と経済の基礎知識」と「金融商品を選ぶスキル」、「外部（専門家や専門機関）の知見の適切な活用」は、『低い』（「低い」と「やや低い」の計）の方が高い数値になりました。自己評価は高いとは言えず、教育経験の不足の影響が考えられます。

◆学校等で金融リテラシーを高めるための金融教育を受けたことがありますか。

（金融リテラシー：家計管理・生活設計・

金融と経済の基礎知識と金融商品を選ぶスキル・外部の知見の適切な活用）

(%)

| | n | あり | なし |
|----|-------|-----|------|
| 全体 | 1,000 | 4.3 | 95.7 |

◆あなたが思う、ご自身の金融リテラシーについて教えてください。

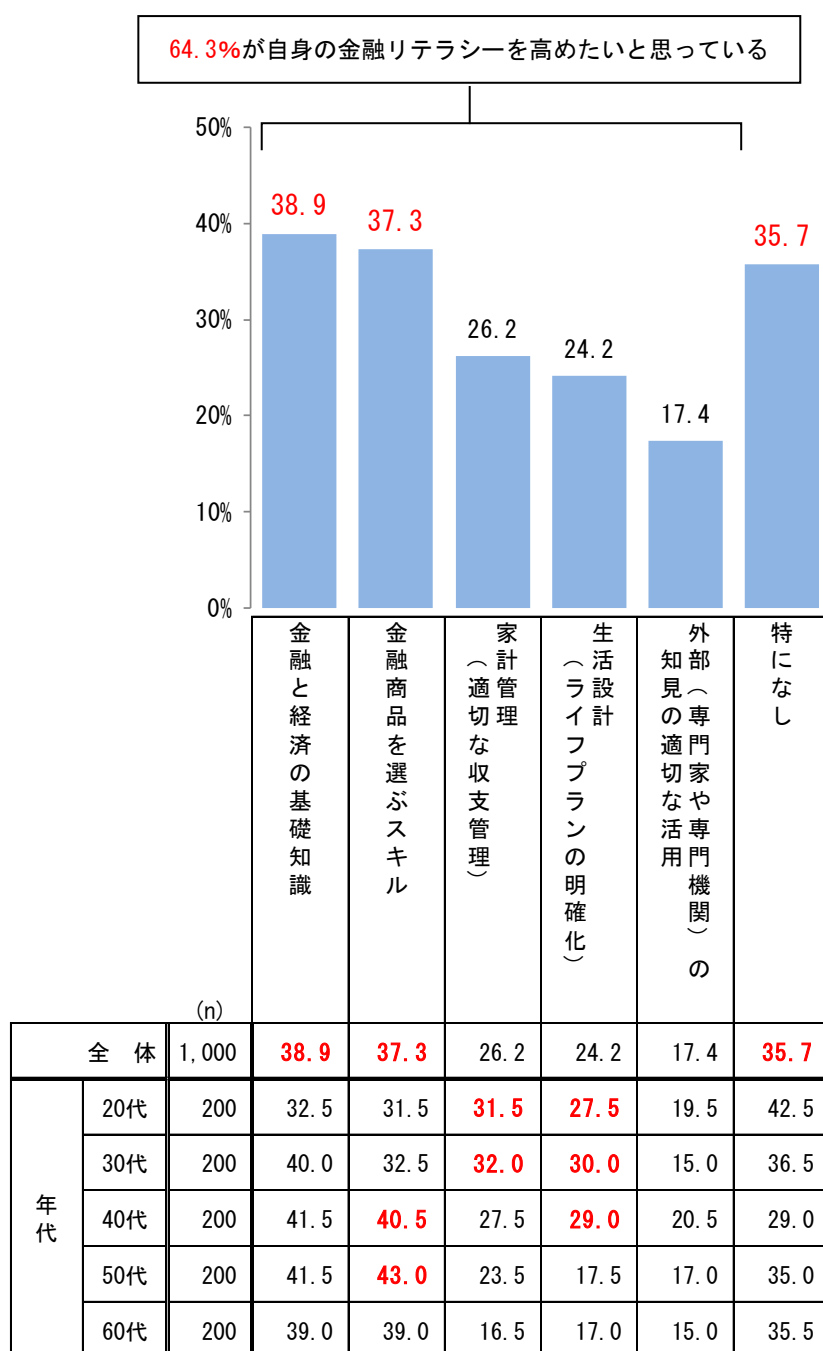
（金融リテラシー：経済的に自立するため、必要なお金にかかわる知識や判断力）

(%)

| | 高い | | | 低い | | |
|-----------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 高い | やや高い | 計 | やや低い | 低い | 計 |
| 家計管理（適切な収支管理） | 13.4 | 47.7 | 61.1 | 29.3 | 9.6 | 38.9 |
| 生活設計（ライフプランの明確化） | 10.5 | 45.8 | 56.3 | 33.9 | 9.8 | 43.7 |
| 金融と経済の基礎知識 | 10.0 | 39.6 | 49.6 | 38.9 | 11.5 | 50.4 |
| 金融商品を選ぶスキル | 9.8 | 36.6 | 46.4 | 40.6 | 13.0 | 53.6 |
| 外部（専門家や専門機関）の知見の適切な活用 | 7.5 | 33.8 | 41.3 | 42.7 | 16.0 | 58.7 |

自身の金融リテラシーについては、6割超（「特になし」（35.7%）を除く64.3%）が高めたいと考えています。内容としては、「金融と経済の基礎知識」（38.9%）と「金融商品を選ぶスキル」（37.3%）が高くなりました。年代別では、「金融商品を選ぶスキル」は40代・50代が、「家計管理（適切な収支管理）」は20代・30代が、「生活設計（ライフプランの明確化）」は20代～40代が高くなっています。

◆あなたが今以上に身につけたいと思う金融リテラシーについてお答えください。
 （複数回答可）



b. 自立に必要な金融リテラシーの学習時期

2022年4月から、高校での金融教育が必修化され、家計管理やライフプランニング、資産形成等について学ぶことになりました。回答者の多くは学校等での金融教育の経験はありませんでしたが（前出「3. a. 金融教育経験の有無」で「なし」が95.7%）、これらの教育については、全体平均で「17.7歳」に開始し、「22.2歳」までに習得することが望ましいと考えているようです。

◆2022年4月から、高校での金融教育が義務化されました。

〔 内容：「家計管理とライフプランニング」「お金の使い方」「リスクに対する備え方」
「資産形成」「お金の借り方」「金融トラブル」 〕

正しい金融知識や適切な判断力を身につけ、経済的に自立し、安定した生活を送るためには、あなたはこれらの教育をいつから受け、いつまでに習得すべきだと思いますか。

(歳)

| | | n | 学習開始年齢 | 習得年齢 |
|----|-----|-------|--------|------|
| 全体 | | 1,000 | 17.7 | 22.2 |
| 年代 | 20代 | 200 | 17.0 | 19.9 |
| | 30代 | 200 | 17.7 | 21.9 |
| | 40代 | 200 | 16.5 | 21.3 |
| | 50代 | 200 | 18.9 | 24.6 |
| | 60代 | 200 | 18.2 | 23.5 |

c. 高校の金融教育における理想の講師

高校の金融教育の講師について、理想だと思ふ有名人をきいたところ、1位は「池上 彰」さん（54票）、2位は「林 修」さん（51票）でした。ニュースやクイズ番組等、テレビでのわかりやすい解説が評価されたものと思われます。3位以下は、YouTube やテレビ・書籍等で、経済や投資に関する情報発信をしている投資家や実業家、経済学者等がランクインしました。

◆高校の金融教育について、理想だと思ふ有名人は誰ですか。

(敬称略)

| 順位 | 理想の講師 | 職業 | 票数 |
|----|----------------|----------------|----|
| 1位 | 池上 彰 | 教授、ジャーナリスト | 54 |
| 2位 | 林 修 | 予備校講師、タレント | 51 |
| 3位 | 堀江 貴文 | 実業家 | 37 |
| 4位 | 森永 卓郎 | 経済アナリスト | 28 |
| 5位 | 厚切りジェイソン | IT企業役員、お笑いタレント | 22 |
| 6位 | 中田 敦彦 | お笑い芸人、YouTuber | 16 |
| 7位 | ひろゆき | 実業家、論客 | 11 |
| 8位 | テスタ | 株式投資家 | 10 |
| | 桐谷 広人 | 将棋プロ棋士、投資家 | |
| | 両学長（リベラルアーツ大学） | IT経営・投資家 | |

以上